

## 市長記者会見記録

日時：2026年2月18日（水）14時00分～14時20分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

### <内容>

#### 【市政一般】

#### 《特別市について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入ります。まず、幹事社様からよろしくお願いいたします。

【朝日（幹事社）】 朝日新聞でございます。

2月12日に経団連の筒井さんにお会いしましたが、意見交換の内容について教えていただけないでしょうか。

【市長】 筒井会長には、指定都市市長会の久元会長と私でお会いさせていただきました、特別市の制度の在り方ですとか、報告書をベースに私たちの考え方をお伝えして、逆に経団連のほうからは、経団連が提唱している道州圏域の構想をお話しいただいて、意見交換をさせていただきました。

道州圏域の構想についても私たちの考え方と同じように、中核的な都市の発展を目指していくという方向性にはあまり大きな違いはないので、そういったところの親和性ですとか、あるいは、筒井会長からは、例えば企業として、自治体の、例えば申請だとか許可だとか、どのように特別市によってメリットがありますかとか、そういうようなお話も、ざっくばらんな話がありました。いい意見交換ができたなと思っております。

【朝日（幹事社）】 以前から、東京一極集中ではなくて、大都市がより発展することが国際競争に有利になるんだという御主張で指定都市市長会は特別市の制度を進めてきたという理解なんですけれども、経団連と協力することによって、特別市制度の実現について、どのようなメリットを考えていらっしゃるのかというところを教えてください。

【市長】 非常に大きな、国の在り方を考えていく、そういったものになっていきますので、特に多極分散型の社会を目指す、成長する姿を見せるということに対して、経済界の皆さんの御理解は欠くことのできないものだと思いますので、これまでも経済同友会の皆さんと意見交換もさせていただきましたが、ぜひ共に持続可能な多極分散型の成長を遂げる、そういった日本をつくるために、経済界の皆さんともこれからも意見交換をしていきたいなと思っております。

【朝日（幹事社）】 それは、経団連の筒井会長としては、賛同してくれたという捉え方でよろしいですか。反対はしなかったということでしょうか。

【市長】 賛同だとか反対だとかというやり取りではなかったもので、そういう意味では、お

互いの考えていることをお互いに開陳して、意見交換を行って、こういうところは、なるほど、そういうことですねというやり取りをさせていただいたということなので、非常に前向きな意見交換だったとは思いますが。

【朝日（幹事社）】 経団連とは、今回、公的な場としての意見交換は初めてでしょうか。

【市長】 そうですね。事務総長には一度御説明させていただいたことはありますが、経団連会長という立場でお会いしたのは初めてでございますので、公的には初めてということになります。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

#### 《衆議院議員総選挙等について》

【時事（幹事社）】 幹事社の時事通信社です。

選管の話ですけれども、さきの衆院選のほうで作業ミスがあって、不在者投票が無効になったという事態があったんですけれども、これを受けての市長のお気持ちとか考えとか、そういうことをお願いいたします。

【市長】 まず、32票の貴重な票が結果に反映されなかったということは、誠に残念、遺憾でありますし、この事実をしっかりと反省して、そして必ず次に、こういった同じようなミスがないようにしなければならないということを思っております。

その上で、私から選挙管理委員会のほうにこういったお願いをしたのは、やっぱり選挙の事務のプロの人たちが見ている世界と、これからますます、いわゆる選挙事務に慣れていない人たちがお手伝いに入ってくると。特にこれから、参議院のときからやっておりますけれども、いわゆる地域の人たち、町内会、自治会の皆さんからお手伝いいただくというのをさらに縮小して、負担を減らして、新しい人たちに委託をしていく、あるいは職員もさらに動員していくという形になりますので、選挙事務に必ずしも精通している者でない人たちに、今回の衆議院選挙みたいな急な話というのがありますけれども、ということがこれからも想定されていくと。

選挙運営というものではますます難しい環境になってくるという意味で、そういう意味では、どんなに慣れていない人でも、フェイルフリーといいますか、そういったミスが起きないように形のフローというのを、もう一度素人の目線から見直す必要があるのではないかという話をいたしました。何となく僕とか選管のメンバーとかと話していると、これって普通だよ、当然だよという話というのは、普通の一般の事務をやっていると、当然じゃないことというのが結構あるものなので、そういった意味で、本当に選挙事務に関わったことのない人たちから見て、検証を繰り返してやってほしいと。平時のときにこそ、もう一度見直してほしいというお願いをさせていただきました。

【時事（幹事社）】 そのお願いは、今回の事態を報告して、いつぐらいにお願いというか。

【市長】 まさに今回の発表に至る前日、前々日だったと思いますが、私のところに報告に来た際にそのような話をいたしました。

【時事（幹事社）】 選管事務局長のほうということですかね。

【市長】 はい。

【時事（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

もう一点いいですか。

【市長】 どうぞ。

【時事（幹事社）】 その衆院選なんですけれども、自民党圧勝となりまして、今日ですか、第2次高市内閣が夜に発足するかと思うんですけれども、高市内閣、高市総理に対する期待というか抱負とか、そういうものはございますか。要望とか。

【市長】 昨年の夏の参議院選挙のときに、参議院でも少数になって、衆議院でも少数与党という形で、政策の決定プロセスというのが、先行き少し見えなくなるよねという話をこの会見の場でもさせていただいたと思うんですが、そういった意味では、安定すると。どういう形で政策が決定していくのかというのは、少し見えやすく、先行きが見通しやすくなったのではないかなと思います。

特に、私たちが応募しておりますGX戦略地域の指定ですとか、ああいう骨太の成長戦略というのが、より安定的にできるのではないかなと思っていて、そういった骨太の話については安定感が増すということは、私たち自治体にとっては期待したいところであります。

【時事（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 では、幹事社様以外で御質問がございましたらお願いいたします。

東京新聞さん、お願いします。

#### 《ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会について》

【東京】 東京新聞です。

ミラノ・コルティナ五輪で川崎市出身の古賀選手、頑張りたいと言っていた決勝進出はなりませんでしたが、川崎出身というところで希望を与えてくれた部分があるかなと思います。

【市長】 そうですね。

【東京】 市長、古賀選手のプレーというか、御覧になってどういうふうにお感じになられたかというのと、また、フリースタイルスキー以外の競技で今回注目して御覧になっている競技などがあれば教えていただけますか。

【市長】 古賀選手の映像も私は拝見しましたが、本当によく頑張ってくれたと思っていて、2回転半（900）というのを決めている姿はカッコいいなと思いましたし、繰り返しになりますけれども、前も言ったんですが、雪国ではない川崎市からのオリンピック誕生、そして初の決勝を目指してという形で取り組まれたというのは非常に誇らしく思いました。ビッグエアのほうで、2回目でけがされたということがすごく残念でしたけれども、大事に至っていないということなので少し安心しましたが、ぜひこれからも頑張ってくださいなと思います。

全体的に言うと、獲得メダル最多を現在更新中ということですので、本当に寒い冬もあつたかくしてくれているなと思っていますし、一つ一つの競技が、見る時間が明け方だったり

とかというので大変なことはありますけれども、でも、すごく勇気をもっているなと思って、スポーツのすばらしさを感じております。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。

共同通信さん、お願いします。

#### 《市立小学校教諭の逮捕を受けた対応等について》

【共同】 共同通信です。

既に3回ほど逮捕されている教諭がいると思うんですけども、3回目の逮捕の際に、性的姿態撮影処罰法違反のほうでも逮捕がされた分が先日起訴になって、これについては、起訴状を読む限り、盗撮の類いではないようなんですが、一方で、学校内で、児童を、何らかの性的な趣旨を持った撮影をしたという行為が確認されているんだと思います。そこで、市としては、盗撮の類いを一刻も早く検知できるように、カメラの点検ですとか、そういったことを行う予定があるかというのを伺いたいです。

【市長】 教育委員会から聞いている話では、いわゆる定期的にチェックというより、定期的なということもあるんでしょうけれども、何か、例えばカメラのようなものが置かれていないかとかということは、各学校で取り組んでいただいていると聞いています。それは、今回の事案を受けてもそうだというふうに私は理解しておりますが、やっていただいております。

皆さん、この事案を受けて、各学校も非常に自分事だというふうに危機感を強めていると思いますので、その取組をしっかりとやっていただきたいと思っています。こういう事案が起きるのは非常に残念ですけども、学校の現場の先生方は、とにかく子供たちが安心できる環境づくりには日々努めていただいていると思っていますので、それを徹底していただきたいと思っています。

【司会】 よろしいでしょうか。

では、読売さん、お願いします。

#### 《衆議院議員総選挙等について》

【読売】 読売新聞です。

先ほども質問がございました衆院選の開票時の不在者投票の反映できなかった32票についてお尋ねしたいんですけども、記者会見では、事務局が、今のところ懲戒処分については決まったものはないということだったんですけども、それは、懲戒処分をしないということで決まったのか、それとも、それについても検討していくのか、教えていただけますか。

【市長】 検討しているということだと思います。いわゆる処分量定というのが決まっておりますので、それに該当するのかわからないのかということのまず見極めだとは思っています。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 ほかにいかがでしょうか。

では、日経さん、お願いします。

#### 《「Kawasaki Accelerating Open innovation Summit (KAOS)」について》

【日経】 日経新聞です。

先日、市長も出席されて、川崎発の新産業創造を目指すアイデアソン「KAOS」が開かれました。これは、やはり市長、過去に行ったアメリカのボストンの視察、ここら辺に結構触発されたというか、そういうところがあったんでしょうか。

【市長】 全くそのとおりです。やはりボストンというのも、今ではすごい、最もイノベーションなまちだみたいな、都市だと言われておりますけれども、それが昔からそうであったわけではなく、過去15年ぐらいで急速にそういったまちを形成してきていると。そこは、企業間だとかを超えて、特にテック企業を中心に、MITだとか、産学官、金融も含めた、そういうネットワークが個々に存在しているというか、その集積の強みを非常に強く生かしているなど感じるものがありまして、そういう意味では、川崎とボストン、非常に類似性の高いところがたくさんあって、市内550の官民合わせて研究機関がたくさんある、この強み、集積の強みというのをどこまで生かしているのかといったところにやや課題感というのは私自身は感じておりまして、例えば大手の企業さんなんかも研究機関を持って、そしてオープンイノベーションの施設みたいなものを持って運用されておられますが、必ずしもお客様とのオープンイノベーションという形から、もっと広範囲にネットワーキングできていないというのは、それは複数の企業から私も聞いた課題感だと思いますし、それをこの川崎をサイトとして、もう少しネットワーキングができないものだろうかということを常々、2年前の視察のときから考えておりました。

そういったものを、企業間だけでなく、川崎市が1つのプラットフォームとして、それと、今回、学術機関としては慶應の伊藤塾長ですとか、あるいは横浜国大の梅原学長だとかというトップリーダーの皆さんにも参加いただいたり、あるいは金融の世界というのも、あえて、ぜひ来てくださいという形で来ていただいて、非常にいい形のスタートができたと思っています。これをどういうふうになんとしたエコシステムにつくり上げていくかというのは、これからも繰り返し繰り返し取組を加速させていきたいなと思っていて、いいキックオフができたと思っています。

【日経】 今おっしゃられた、どうやってこのエコシステムを続けていくかということですが、市としてのこれからの、あくまで主役は民間企業だとは思いますが、市として、続けるための支援策と、10年後の将来像の経済効果、どのように見ておられますでしょうか。

【市長】 経済効果については、まだちょっとお示しするには早いかなと思うんですが、それにしても、それぞれが持っている、例えばK-NICも、あれはNEDOの国策のところもあるにもかかわらず、自治体との連携によってあいつた仕組みができたということで、そこ企業を持っているオープンイノベーション施設、サイトみたいなものがうまくもっと連携できればいいなと思っていて、その発信が、企業からの発信というよりも、時に

は自治体の、エリアマネジメントを行っている、川崎市という存在が媒介するほうが、はるかに連携が進みやすいと。プラットフォームとしての役割というのがあるんじゃないかと思っていて、そういうつなぎというのをより加速させていきたいなと思っています。それがうまく運用されていくと、自然的にエコシステムとして機能し始めるんだと思うので、そういうのが次々と生まれる仕組みだとか、場合によっては施設なのかもしれませんし、機能なのかもしれませんし、どういうものがさらに加速させるのかということについては、ぜひコアな人たちとさらに意見を交わして、何かつくり上げていきたいなと思っております。

【日経】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

---

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) [川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当](#)